

第9章 その他資料

第1節 宮古支庁

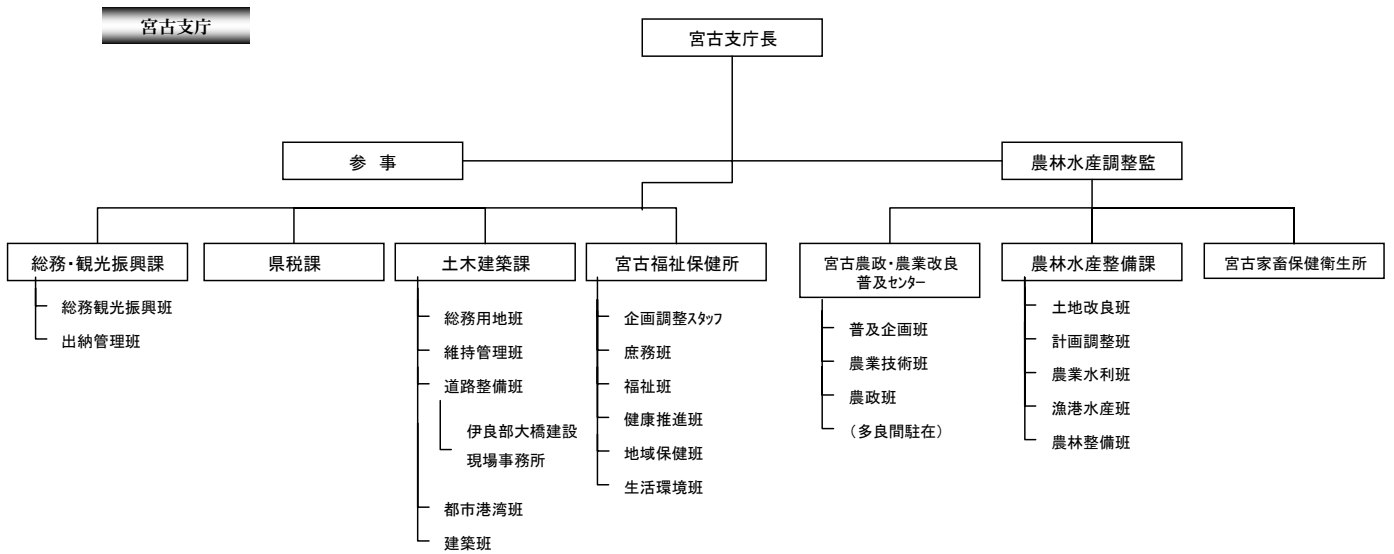
支庁改編とは、これまで総合出先機関（地方自治法第155条）であった宮古支庁を本庁関係各部と直結した個別出先機関（同156条）に移行するものである。

当初は、平成20年11月定例県議会で審議されたが、地元で理解が得られていないことを理由に決を採ることなく、継続審議となっていた。

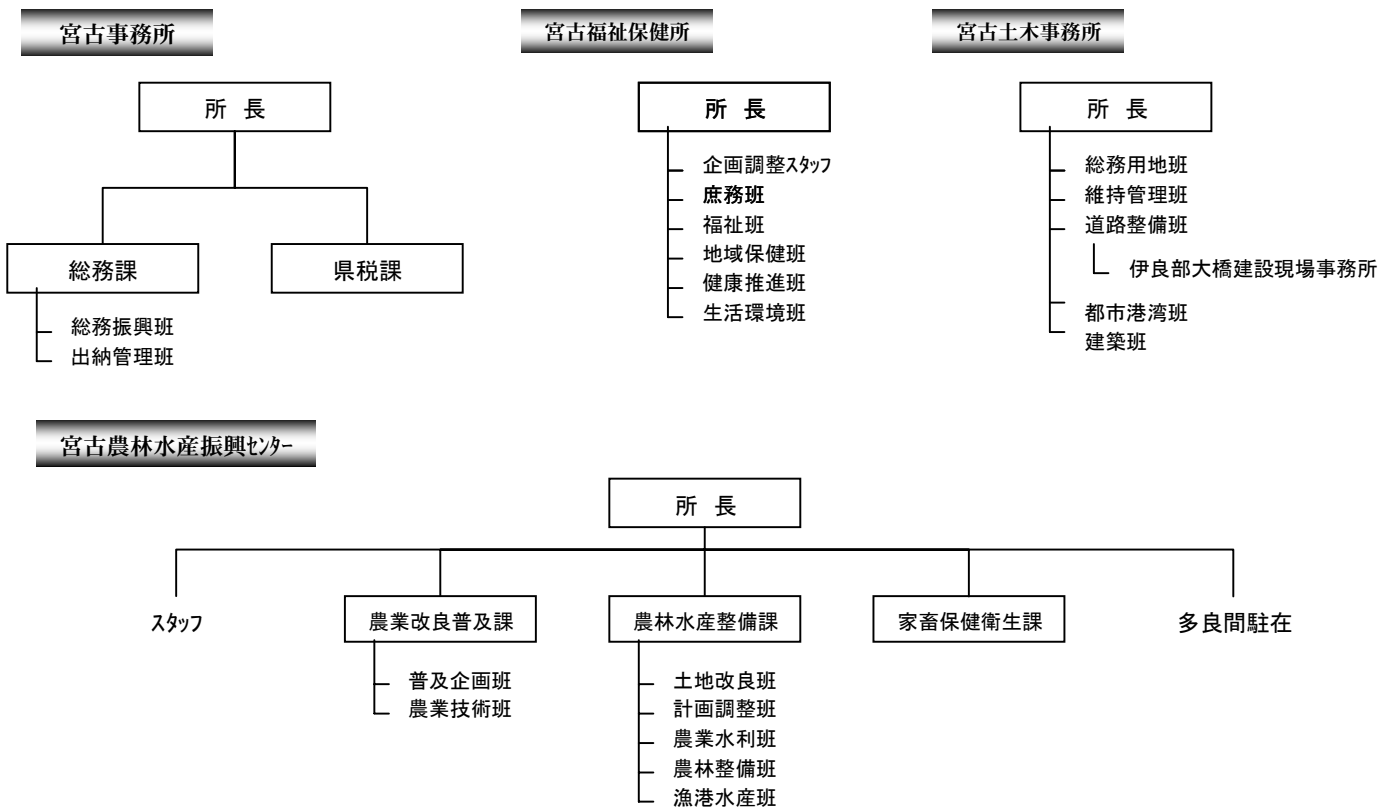
しかしながら、平成21年1月13日、平成21年第1回沖縄県議会（臨時会）において、宮古・八重山地域住民の要望に応えるため、

- ①これまで支庁が担っていた各種施策・事業については、支庁組織改編後も引き続き確実に実施し、住民サービスの向上を図ること。
 - ②現在進めている伊良部大橋の整備（八重山においては新石垣空港の建設）等の重要施策を着実に推進するとともに、宮古地域の振興・発展に努めること。
 - ③災害時の危機管理等に関する総合調整機能を確保すること。
 - ④宮古事務所の所長は、本庁部長クラスを配置すること。
- 以上の条件に万全を期すこととして、条例案が賛成多数で可決された。

図表 9-1 改編前支庁組織図



図表 9-2 改編後組織図



図表 9-3 宮古支庁の沿革

年 代	沿 革
明治13年6月 明治29年	宮古島役所が設置される。 沖縄県区制、沖縄県郡編成法が勅令によって交付され、宮古島役所は宮古島庁に改称される
大正15年7月	郡制が廃止され、宮古島庁は県の一事務所として宮古支庁と改称される。
昭和20年8月	終戦と同時に軍政がしかれ、宮古支庁はそのまま継続される。
昭和22年3月	宮古支庁は宮古民政府に改められ、支庁長は知事に改称される。昭和21年3月軍政府令第1号で先島行政権は沖縄本島より分離される。よって、県庁の存在しない現況下では宮古支庁の存続は意味がないとの声が高まり、昭和22年3月8日の宮古郡会で宮古支庁を宮古民政府に改称するよう決議され、軍政府に意見書を提出する。昭和22年3月21日軍政府の認可により宮古支庁は同日より宮古民政府に改称され、支庁長も知事と改称される。
昭和25年11月	軍政府令22号(郡島組織法)により、宮古民政府は宮古郡島政府に改称され、初の公選知事が就任する。
昭和27年2月	布告第13号(琉球政府の設立)並びに布令第68号(琉球政府章典)公布される。引き続き同年3月15日に布令第69号が公布され、郡島政府は同年3月31日付廃止される。
昭和27年4月	布告第13号により、琉球政府が創立され、これに伴い郡島政府は宮古地方庁と改称される。
昭和45年10月	琉球政府行政組織法の改正により、宮古地方庁は宮古支庁と改称される。
昭和47年5月	本土復帰に伴い、琉球政府は解消され、沖縄県となる。よって、琉球政府宮古支庁は解消され沖縄県宮古支庁が設置される。
昭和60年4月 平成8年4月	機構改革の実施により、総務課の管理係が総務係に統合される。宮古福祉事務所、宮古農林土木事務所、宮古土木事務所が宮古支庁に統合され、4課から7課体制となる。
平成9年4月	機構改革により、会計課が振興総務課に吸収され、新たに商工観光課が設置される。
平成9年11月	宮古支庁新庁舎が完成し、これまで分散していた機関(農業水産整備課、土木建築課)が新庁舎へ集約される。
平成10年4月	宮古家畜保健衛生所と宮古農業改良普及センターが宮古支庁に統合され、7課2機関職員体制174名体制となる。
平成13年4月	機構改革により、振興総務課と商工観光課が統合され、6課2機関となる。

平成14年4月	機構改革により、福祉課と宮古保健所が統合されて宮古福祉保健所となり 5 課 3 機関、職員212名体制となる。
平成18年4月	機構改革により農林水産振興課、農業水産整備課、宮古農業改良普及センターの 2 課 1 機関が再編、農林水産整備課、宮古農改・農業改良普及センターとなり、4課3機関体制となる。
平成21年4月	組織改編で、宮古支庁総務・観光振興課と同県税課が統合し、（総務部）宮古事務所。宮古支庁農林水産整備課と同宮古農政・農業改良普及センターと同宮古家畜保健衛生所が統合し、（農林水産部）宮古農林水産振興センター。宮古支庁土木建築課が（土木建築部）宮古土木事務所。宮古支庁宮古福祉保健所が（福祉保健部）宮古福祉保健所となる。

参考資料：平良市史（明治 13 年～47 年）

図表 9-4 歴代宮古支庁長

就任年月日	職名	氏名	退任年月日	転出先
明治13・6・23	宮古島役所長	俣野景孝	明治13・6・30	退職
〃 13・7・1	宮古島役所長(心得)	真島宣徳		
〃 16・7・	宮古島役所長	伊王野義之介	〃 25・1・26	久米島役所長
〃 25・2・	〃	吉村貞寛	〃 26・7・22	退職
〃 26・7・22	〃	太田謙吉		
〃 29・4・1	宮古島庁島司	太田謙吉	〃 29・6・10	
〃 29・6・10	〃	吉野幸徳	〃 34・3・18	退職
〃 34・3・18	〃	小野朔二郎	〃 37・11・1	北海道
〃 37・11・1	〃	橋口軍六	大正元・12・10	退職
大正元・12・10	〃	山口源七	〃 4・4・28	退職
〃 4・4・28	〃	丹親欣	〃 5・6・29	退職
〃 5・6・29	〃	山内権次郎	〃 7・2・18	島尻郡長
〃 7・2・18	〃	比嘉賀学	〃 7・6・3	退職
〃 7・6・3	〃	高橋彦七	〃 8・1・19	退職
〃 8・3・10	〃	松方太次郎	〃 10・10・	退職
〃 10・12・15	〃	川俣三次	〃 13・3・20	退職
〃 13・4・16	〃	与那原良知		
〃 15・7・1	宮古支庁長	与那原良知	昭和4・9・26	退職
昭和4・9・26	〃	岩田貞喜	〃 5・12・10	愛媛県
〃 5・12・10	〃	立石尚純	〃 10・4・	熊本県
〃 10・4・	〃	明知延佳	〃 14・4・21	台湾
〃 14・4・21	〃	護得久朝昌	〃 18・5・	ホル材方面 海軍司政官
〃 18・5・	〃	大舛久雄	〃 19・4・	八重山支庁長
〃 19・4・	〃	納戸桑吉	〃 20・12・11	辞任
〃 20・12・11	〃	島袋慶輔	〃 21・10・19	辞任
〃 21・10・19	〃	西原雅一	〃 22・2・2	辞任
〃 22・2・2	〃	具志堅宗精		
〃 22・3・31	宮古民政府知事	具志堅宗精	〃 25・10・10	辞任
〃 25・11・18	宮古群島政府知事 (公選)	西原雅一	〃 27・3・11	立法院議員
〃 27・10・2	宮古地方庁長	砂川恵敷	〃 29・3・19	立法院議員
〃 29・4・12	〃	池村恵信	〃 33・2・17	辞任
〃 33・2・17	〃	玉木玄教	〃 37・2・1	辞任
〃 37・2・1	〃	白川英男	〃 40・7・31	郵政庁へ
〃 40・8・1	宮古地方庁長	金城英浩	〃 43・10・1	立法院議員

〃 43・10・11	〃	下里恵良	〃 43・11・30	辞任
〃 43・12・1	〃	宮国泰良		
〃 45・10・1	宮古支庁長	宮国泰良	〃 53・7・31	辞任
〃 53・8・1	〃	垣花泰次	〃 56・3・31	退職
〃 56・4・1	〃	砂川栄正	〃 59・3・31	生活福祉部へ
〃 59・4・1	〃	砂川夏男	〃 61・3・31	退職
〃 61・4・1	〃	下地玄徳	平成元・3・31	観光文化局へ
平成元・4・1	〃	下地恵章	〃 3・3・31	監査委員事務局へ
〃 3・4・1	〃	仲間忠勝	〃 3・5・19	退職
〃 3・6・7	県総務部次長(兼) 宮古支庁長	宮里整	〃 3・7・31	兼務を解く
〃 3・8・1	宮古支庁長	赤嶺繁	〃 5・3・31	基地対策室へ
〃 5・4・1	〃	新里武満	〃 7・3・31	退職
〃 7・4・1	〃	与儀一夫	〃 8・3・31	〃
〃 8・4・1	〃 (本庁部長級に格上げ)	小波津仁一	〃 10・3・31	(財)沖縄県畜産振 興基金公社へ
〃 10・4・1	〃	仲村昇	〃 11・1・13	企画開発部へ
〃 11・1・14	〃	下地敏彦	〃 14・1・21	退職
〃 14・2・1	〃	太田守胤	〃 15・3・31	(財)海洋博覧会記 念公園管理財団へ
〃 15・4・1	〃	安和朝忠	〃 17・3・31	(財)沖縄県保健医 療福祉事業団へ
〃 17・4・1	〃	兼城克夫	〃 19・3・31	退職
〃 19・4・1	〃	長濱政治	〃 21. 3. 2	退職
〃 21・3・3	〃	下地洋一	〃 21. 3. 31	宮古事務所長へ

第2節 財政

1 歳入

図表 9-5 租税収入額の推移

単位：千円

区分 年度	国 税	地 方 税			合 計	対前年比 (%)
		県 税	市町村税 (宮古島市、多良間村)	計		
平成9年度	5,713,086	1,922,263	4,535,665	6,457,928	12,171,014	105.1
平成10年度	6,131,503	2,039,300	4,666,980	6,706,280	12,837,783	105.5
平成11年度	5,547,084	1,873,892	4,822,610	6,696,502	12,243,586	95.4
平成12年度	6,494,336	2,134,519	5,168,822	7,303,341	13,797,677	112.7
平成13年度	5,292,350	2,024,627	5,159,785	7,184,412	12,476,762	90.4
平成14年度	5,251,861	2,028,388	5,163,153	7,191,541	12,443,402	90.2
平成15年度	5,060,054	1,813,471	5,055,434	6,868,905	11,928,959	95.6
平成16年度	5,522,892	1,777,941	4,962,168	6,740,109	12,263,001	102.8
平成17年度	5,668,065	1,730,073	5,137,513	6,867,586	12,535,651	102.2
平成18年度	5,294,225	1,923,387	5,191,637	7,115,024	12,409,249	99.0
平成19年度	5,284,544	2,008,150	5,281,420	7,289,570	12,574,114	101.3
平成20年度	4,871,297	2,100,749	5,348,553	7,449,302	12,320,599	98.0
平成21年度	4,597,503	1,966,757	5,249,611	7,216,368	11,813,871	95.9

資料：宮古島税務署、沖縄県宮古事務所県税課、沖縄県市町村課

図表 9-6 地方税目別租税の内訳

(平成21年度)

単位：千円

県 税				市 町 村 税 (宮古島市、多良間村)			
税 目	調定額	収入額	収入の構成比 (%)	税 目	調定額	収入額	収入の構成比 (%)
個人県民税	1,002,768	932,982	50.22	個人市町村民税	1,559,175	1,414,590	31.43
法人県民税	64,489	62,252	3.35	法人市町村民税	277,638	262,969	5.84
個人事業税	43,615	38,196	2.06	固定資産税	2,932,029	2,367,077	52.59
法人事業税	157,421	150,903	8.12	軽自動車税	164,958	142,208	3.16
不動産取得税	157,714	152,509	8.21	市町村たばこ税	312,927	312,390	6.94
県たばこ税	0	0	0.00	鉱産税	1,651	1,651	0.04
ゴルフ場利用税	57,542	57,542	3.10	特別土地保有税	0	0	0.00
自動車税	455,446	435,554	23.45				
自動車取得税	27,680	27,680	1.49				
狩猟税	82	82	0.00				
合 計	1,966,757	1,857,700	100.00	合 計	5,248,378	4,500,885	100.00

資料：宮古事務所県税課、市町村課「市町村行財政概況（平成23年3月）」

図表 9-7 市町村別租税の内訳

(平成21年度)

単位：千円、%

税目	宮古島市		多良間村		合計		収入額の 構成比(%)
	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	
市町村民税(個人)	1,532,885	1,391,256	26,290	23,334	1,559,175	1,414,590	31.4
市町村民税(法人)	271,092	256,536	6,546	6,433	277,638	262,969	5.8
固定資産税	2,863,611	2,308,185	68,418	58,892	2,932,029	2,367,077	52.6
軽自動車税	162,054	139,959	2,904	2,249	164,958	142,208	3.2
市町村たばこ税	306,971	306,971	5,956	5,419	312,927	312,390	6.9
鉱産税	1,651	1,651	0	0	1,651	1,651	0.0
特別土地保有税	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	5,138,264	4,404,558	110,114	96,327	5,248,378	4,500,885	100.0

資料：市町村課「市町村行財政概況(平成23年3月)」

図表 9-8 市町村歳入の状況

(平成21年度)

単位：千円、%

区分	宮古島市		多良間村	
	決算額	構成比	決算額	構成比
1. 地方税	4,405,791	11.6	96,327	4.2
2. 地方譲与税	447,118	1.2	34,428	1.5
3. 利子割交付金	11,630	0.0	170	0.0
4. 配当割交付金	1,682	0.0	24	0.0
5. 株式等譲渡所得割交付金	1,485	0.0	21	0.0
6. 地方消費税交付金	404,715	1.1	8,737	0.4
7. ゴルフ場利用税交付金	40,457	0.1	0	0.0
8. 特別地方消費税交付金	0	0.0	0	0.0
9. 自動車取得税交付金	82,027	0.2	7,709	0.3
10. 地方特例交付金	76,141	0.2	4,096	0.2
11. 地方交付税	13,633,532	35.8	1,054,654	45.7
一般財源(1~11)計	19,104,578	50.1	1,206,166	52.2
12. 交通安全対策特別交付金	11,541	0.0	0	0.0
13. 分担金及び負担金	74,426	0.2	10,619	0.5
14. 使用料	644,147	1.7	29,229	1.3
15. 手数料	134,576	0.4	915	0.0
16. 国庫支出金	8,110,036	21.3	458,183	19.8
17. 国有提供施設等所在市町村助成交付金	7,857	0.0	0	0.0
18. 県支出金	4,976,175	13.1	252,110	10.9
19. 財産収入	83,410	0.2	2,430	0.1
20. 寄附金	3,907	0.0	790	0.0
21. 繰入金	0	0.0	41,838	1.8
22. 繰越金	1,183,876	3.1	153,944	6.7
23. 諸収入	354,141	0.9	41,477	1.8
24. 地方債	3,417,977	9.0	111,955	4.8
歳入合計	38,106,647	100.0	2,309,656	100.0
うち自主財源 (1+13+14+15+19+20+21+22+23)	6,884,274	18.1	377,569	16.3
うち依存財源 (2+3+4+5+6+7+8+9+10+11+12+16+17+18+24)	31,222,373	81.9	1,932,087	83.7

資料：市町村課「市町村行財政概況(平成23年3月)」

2 歳出

図表 9-9 市町村別目的別歳出の状況

(平成21年度)

単位：千円, %

区分	宮古島市		多良間村	
	決算額	構成比	決算額	構成比
1. 議会費	238,414	0.7	35,309	1.7
2. 総務費	5,727,056	15.7	622,997	29.2
3. 民生費	8,539,614	23.4	206,129	9.7
4. 衛生費	1,527,893	4.2	194,709	9.1
5. 労働費	17,344	0.0	0	0.0
6. 農林水産業費	5,952,433	16.3	336,421	15.8
7. 商工費	406,006	1.1	37,600	1.8
8. 土木費	4,900,930	13.4	79,685	3.7
9. 消防費	903,566	2.5	19,132	0.9
10. 教育費	4,200,134	11.5	305,604	14.3
11. 災害復旧費	0	0.0	0	0.0
12. 公債費	3,988,840	10.9	295,600	13.9
13. 諸支出金	63,868	0.2	0	0.0
歳出合計	36,466,098	100.0	2,133,186	100.0

資料：企画部市町村課「市町村行財政概況（平成23年3月）」

図表 9-10 市町村別性質別歳出の状況

(平成21年度)

単位：千円, %

区分	宮古島市		多良間村	
	決算額	構成比	決算額	構成比
1. 人件費	7,237,978	19.8	398,579	18.7
2. 扶助費	4,177,800	11.5	29,311	1.4
3. 公債費	3,988,840	10.9	295,600	13.9
義務的経費(1~3)計	15,404,618	42.2	723,490	33.9
4. 普通建設事業費	11,437,826	31.4	585,817	27.5
5. 災害復旧事業費	0	0.0	0	0.0
6. 失業対策事業費	0	0.0	0	0.0
投資的経費(4~6)計	11,437,826	31.4	585,817	27.5
7. 物件費	3,479,570	9.5	294,766	13.8
8. 維持補修費	226,176	0.6	8,725	0.4
9. 補助費等	2,301,683	6.3	123,429	5.8
10. 積立金	662,638	1.8	288,107	13.5
11. 投資及び出資金	27,084	0.1	80	0.0
12. 貸付金	2,280	0.0	270	0.0
13. 繰出金	2,924,223	8.0	108,502	5.1
14. 前年度繰上充用金	0	0.0	0	0.0
歳出合計	36,466,098	100.0	2,133,186	100.0
内消費的経費(1+2+7+8+9)	17,423,207	47.8	854,810	40.1

資料：企画部市町村課「市町村行財政概況（平成23年3月）」

第3節 水道・電気

図表 9-11 島別水道状況

平成21年3月31日

島名	市町村名	人口 (人) A	給水人口 (人)			普及率 (%) B/A	施設数		水源	1日 最大 給水量 (m3)	備考
			上水道	簡易水道	計 B		上水道	簡易水道			
宮古島	宮古島市	45,217	45,213		45,213	100.0	1		湧水、地下水	23,925	
池間島	〃	691	691		691	100.0			受水		宮古島から海底送水
大神島	〃	34	34		34	100.0			〃		宮古島から海底送水
来間島	〃	170	170		170	100.0			〃		宮古島から海底送水
伊良部島	〃	5,674	5,673		5,673	100.0	0		地下水	3,099	
下地島	〃	31	31		31	100.0			受水		伊良部島から送水 (橋梁添架)
多良間島	多良間村	1,259		1,259	1,259	100.0		1	地下水	660	
水納島	〃	4			0	-			ため池		飲料水供給施設
宮古圏域計		53,080	51,812	1,259	53,071	100.0	1	1		27,684	

資料：福祉保健部 薬務衛生課（「離島関係資料」掲載）

図表 9-12 海水送水管施設整備状況

平成21年3月31日現在

送水管敷設区間	事業主体名	施工年度	施設計画		送水管 総延長 (m)	送水管 口径 (mm)	総事業費 (千円)	備考
			給水人口 (人)	給水量 (m3/日)				
宮古島市平良 狩俣(宮古島) ~ 池間島	宮古島市	S46	2,500	420	2,903	150	108,842	
宮古島市下地 (宮古島) ~ 来間島	宮古島市	S47~S49	548	206	1,601	125	116,103	
宮古島市平良 狩俣(宮古島) ~ 大神島	宮古島市	S54~S55	200	80	3,700	75	226,020	

資料：福祉保健部 薬務衛生課（「離島関係資料」掲載）

図表 9-13 島別電化状況

平成22年3月31日現在

島名	市町村名	島内発電 能力(kW)	電化状況				経営主体	備考
			契約口数	需要量(MWh)	電化率(%)	送電時間		
宮古島	宮古島市	76,500	30,927	226,295	100	24時間	沖縄電力(株)	
池間島	〃	0	538	1,552	〃	〃	〃	宮古島から橋梁添架ケーブル
大神島	〃	0	29	51	〃	〃	〃	宮古島から海底ケーブル
来間島	〃	0	184	759	〃	〃	〃	宮古島から橋梁添架ケーブル
伊良部島	〃	0	3,403	18,664	〃	〃	〃	宮古島から海底ケーブル
下地島	〃	0	143	2,237	〃	〃	〃	伊良部島から架空線
多良間島	多良間村	1,590	1,118	5,558	〃	〃	〃	
水納島	〃	0	11	14	〃	〃	〃	多良間島から海底ケーブル
宮古圏域計		78,090	36,353	255,130	-	-	-	

資料：観光商工部 産業政策課（沖縄電力(株)資料による）（「離島関係資料」掲載）

注）需要量は平成21年度分である。

四捨五入の関係で合計値と合わないことがある。

第4節 旅券

図表 9-14 宮古地区旅券申請件数

年 度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
件 数	1,077	1,034	823	752	433	684	678	824	803	735	653

資料：旅券センター（宮古事務所）

*平成22年4月より、旅券（パスポート）に関する受付窓口は宮古島市及び多良間村へ移りました。

（沖縄県宮古合同庁舎1階の宮古旅券センターは、平成22年3月31日で閉鎖となっています。）

第5節 県民生活

図表 9-15 県民生活センター宮古分室相談件数

年 度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
総件数(件)	0	311	467	629	558	423	435	438	410	337
苦 情		290	426	592	539	385	371	401	368	287
問 合 せ		21	41	37	19	38	63	37	42	50
要 望		0	0	0	0	0	1	0	0	0

資料：県民生活センター宮古分室（宮古事務所）

第6節 労働

図表 9-16 県外就職者の推移

単位：人

項目 年度	総 計			中学卒			高校卒			一 般		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
昭和35年度	164	58	106	119	46	73	11	6	5	34	6	28
昭和40年度	388	106	282	252	48	204	60	33	27	76	25	51
昭和45年度	1,057	591	466	311	82	229	229	118	111	517	391	126
昭和50年度	730	444	286	51	2	49	304	97	207	375	345	30
昭和55年度	903 (427)	611 (414)	292 (13)	12	1	11	425	172	253	466 (427)	438 (414)	28 (13)
昭和60年度	1,054 (870)	915 (835)	139 (35)	0	0	0	174	71	103	880 (870)	844 (835)	36 (35)
平成2年度	343 (216)	276 (206)	67 (10)	0	0	0	110	71	103	233 (216)	844 (835)	36 (35)
平成7年度	293 (216)	261 (206)	32 (10)	0	0	0	67	46	21	226 (216)	215 (206)	11 (10)
平成8年度	403 (289)	319 (267)	84 (22)	0	0	0	99	44	55	304 (289)	275 (267)	29 (22)
平成9年度	414 (315)	336 (278)	78 (37)	1	1	0	87	48	39	326 (315)	287 (278)	39 (37)
平成10年度	350 (242)	275 (213)	75 (29)	0	0	0	94	49	45	256 (242)	226 (213)	30 (29)
平成11年度	238 (172)	185 (145)	53 (27)	0	0	0	61	35	26	177 (172)	150 (145)	27 (27)
平成12年度	338 (272)	265 (223)	73 (49)	0	0	0	60	39	21	278 (272)	226 (223)	52 (49)
平成13年度	243 (180)	181 (144)	62 (36)	0	0	0	53	31	22	190 (180)	150 (144)	40 (36)
平成14年度	285 (121)	231 (117)	54 (4)	0	0	0	39	22	17	246 (121)	209 (117)	37 (4)
平成15年度	270 (117)	213 (104)	57 (13)	0	0	0	61	40	21	209 (117)	173 (104)	36 (13)
平成16年度	291 (92)	231 (81)	60 (11)	0	0	0	77	54	23	214 (92)	177 (81)	37 (11)
平成17年度	305 (72)	221 (69)	84 (3)	0	0	0	99	57	42	206 (72)	164 (69)	42 (3)
平成18年度	296 (74)	224 (65)	72 (9)	0	0	0	117	80	37	179 (74)	144 (65)	35 (9)
平成19年度	295 (88)	198 (73)	97 (15)	0	0	0	102	57	45	193 (88)	141 (73)	52 (15)
平成20年度	225 (66)	165 (65)	60 (1)	0	0	0	113	73	40	112 (66)	92 (65)	20 (1)
平成21年度	120 (28)	75 (24)	45 (4)	0	0	0	73	40	33	47 (28)	35 (24)	12 (4)

注1) () 内の数字は出稼ぎ労働者数で内数を示す。

資料：宮古公共職業安定所

注2) 14年度より () 内の集計方法変更。

第7節 伊良部大橋

伊良部大橋 平良下地島空港線

事業概要

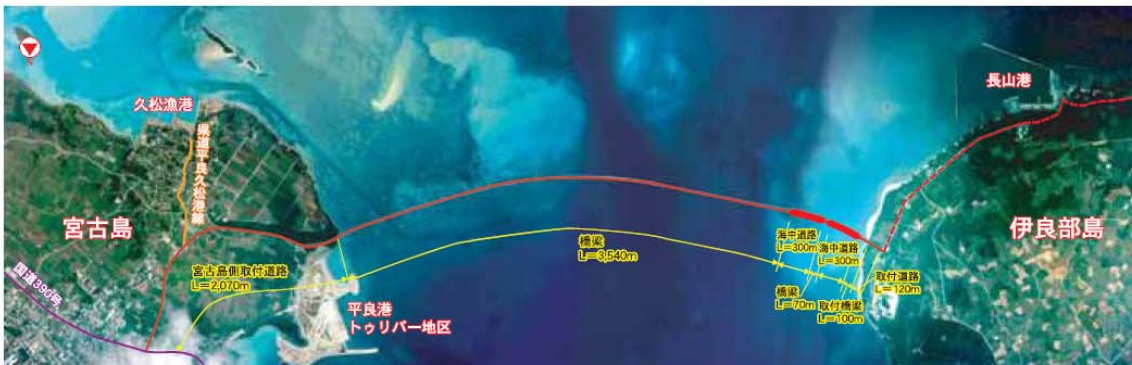
路線名：一般県道平良下地島空港線
 事業年度：平成13年度～平成24年度
 総事業費：約320億円
 道路規格：第3種3級(V=60km)、A活荷重
 延長：6,500m(本橋部3,540m、海中道路部600m
 取付橋梁170m、取付道路2,190m)
 幅員：橋梁部8.5m

上部工形式：PC連続箱桁橋(一般部)、
 鋼床版箱桁(主航路部)、
 中空床版(取付部橋梁)
 下部工形式：PC壁式橋脚、逆T式橋台
 基礎形式：直流基礎(A1橋台、P1橋台)
 鋼管杭基礎(水深5m未満)、
 鋼矢板基礎(水深5m以上)

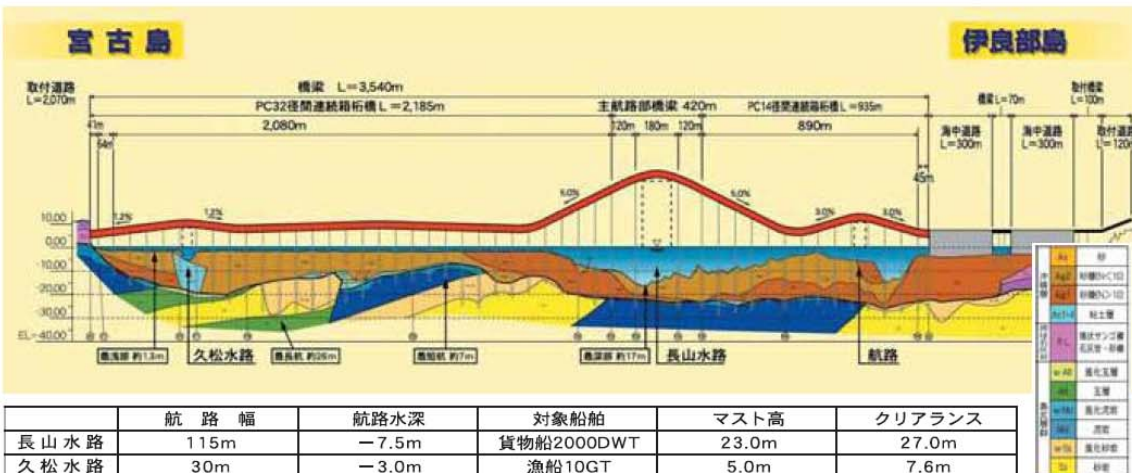
完成予想図 (宮古島側からの眺望)



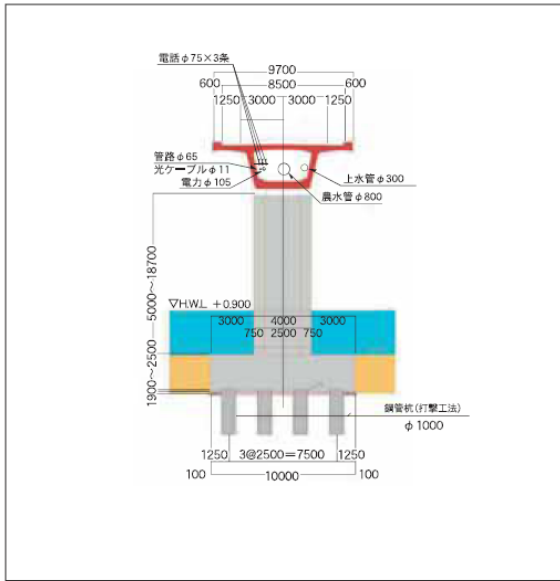
計画ルート図



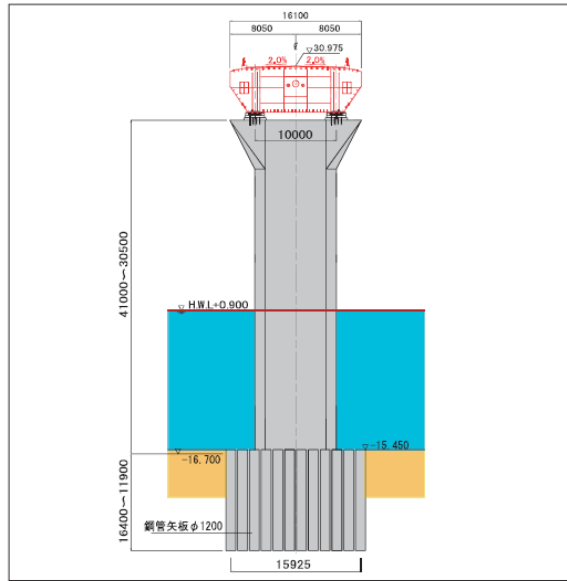
計画側面図



一般部橋梁



主航路部橋梁 (長山水路部)



事業の経緯

昭和49年	架橋要請活動が始まる	平成15年3月	第4回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催
平成4年	基礎調査が始まる	平成15年11月	環境影響評価 準備書の公告縦覧
平成9年	道路網基本計画調査の実施	平成15年12月	環境影響評価 準備書の住民説明会の開催
平成11年	伊良部架橋調査検討委員会の審議	平成16年6月	環境影響評価書の公告縦覧
平成12年7月	伊良部架橋に関する覚書の締結	平成17年7月	漁業補償契約の締結(県、平良市・池間・伊良部町漁業共同組合)
平成13年3月	平良下地島空港線の県道認定	平成17年10月	宮古島市誕生(平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の合併)
平成13年4月	事業化に向けて着工準備調査開始	平成18年3月	伊良部大橋起工式
平成14年3月	伊良部架橋技術検討委員会の設置	平成18年4月	伊良部大橋建設現場事務所設置
平成14年4月	第1回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催	平成18年5月	埋立免許取得(伊良部字池間添地先)
平成14年8月	第2回伊良部架橋技術検討委員会(幹事会)開催	平成19年9月	下部工コンクリート打設開始(A1橋台)
平成14年9月	第2回伊良部架橋技術検討委員会開催	平成20年12月	上部工セグメント架設開始(P1柱頭部)
平成14年10月	環境影響評価方法書の公告縦覧	平成22年3月	主航路路上部工鋼床版箱桁製作架設工事契約締結
平成15年1月	環境影響評価方法書の知事意見の通知	平成22年4月	上部工セグメント架設延長1000m到達(P14~P15)
平成15年2月	第3回伊良部架橋技術検討委員会(幹事会)開催		
平成15年3月	第3回伊良部架橋技術検討委員会開催		

工程表 (予定)

年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
設計		予備設計		基本設計	実施設計							
環境影響評価			アセス手続							環境事後調査		
仮橋												
下部工												
上部工												
橋面工												
海中道路工												
取付道路工												
橋詰広場												



宮古島側進捗状況写真 (平成22,6)



伊良部島側進捗状況写真 (平成22,6)

第8節 宮古史年表

西暦	和暦	事項
1317	文保元	○宮古人、中国温州に漂着。(みやこ、はじめて史書にあらわれる)この頃、宮古は按司(豪族)各地に割拠し、争乱時代に入る。“按司の世”(1300~1365)という。
1365	正平20	○目黒盛、与那覇原軍(主長、佐多大人)を滅し、宮古全島を統一する。目黒盛、島民から豊見親と称えられる。(これより豊見親の世となる)
1390	元中7	○宮古・八重山はじめて中山に入貢。 ○与那覇勢頭豊見親(与那覇原・佐多大人の一族)中山に至り、察度王より宮古主長に任ぜられる。
1474	文明6	○仲宗根豊見親、中山に入貢。宮古主長に任ぜられる。
1500	明応9	○赤蜂の乱(八重山)を平定。仲宗根豊見親、漲水御嶽の石垣を新築奉納。
1522	大永2	○仲宗根豊見親、与那国の鬼虎を征伐。
1525	大永5	○蔵元(政庁)の設置。
1535	天文4	○下地頭職はじまり、二頭制となる。(平良の頭仲宗根玄屯と白川の真普武殿が下地頭)
1583	天正11	○宮古上布はじまり。(稲石が尚永王に綾金上布を献上)
1597	慶長2	○甘藷伝来(砂川氏旨屋長真氏昌屋、河充氏真逸らが中国から)
1609	慶長14	○島津、琉球攻略。
1611	慶長16	○祥雲寺建立。 ○砂川間切をおき、三頭制となる。
1629	寛永6	○宮古に在番を置く。
1636	寛永13	○先島の戸口調査を行う。
1637	寛永14	○人頭税制を施行。
1678	延宝6	○多良間島に騒動起こる。(苛酷な人頭税に抗して農民蜂起)
1686	貞享3	○川満村再び村立。佐和田村村立。
1714	正徳4	○嘉手苺村、大浦村再び村立。
1715	正徳5	○大野山、野田山造林。
1716	享保1	○保良村、野原村再び村立。
1725	享保10	○長間村村立。
1748	寛延元	○「宮古島旧記」成る。
1771	明和8	○大津波来襲。友利・砂川・新里・宮国の四カ村人家流される。(死者2,548人)
1846	弘化3	○平良に南北両校を開く。
1852	嘉永5	○子年(ねどし)の大飢饉。(死者三千余人)
1855	安政2	○多良間島騒動。(農民、役人の圧制を首里王府に直訴)
1860	万延元	○落書事件起こる。(前島尻与人捕われ三年後南長間で斬罪)
1871	明治4	○宮古島年貢船、台湾に漂着。(3人溺死、54人は殺害され、12人が生還)
1872	明治5	○琉球藩となる。

1873	明治6	○ドイツ商船ロベルトソン号、宮国村沖で座礁、乗組員8人を救助。
1874	明治7	○西里村より福里村新設。池間村より西原村新設。
1876	明治9	○ドイツ皇帝、軍艦を派遣しドイツ国民救済感謝碑を建てる。(博愛記念碑)
1879	明治12	○沖縄に廃藩置県を公告。沖縄県となる。 ○旧藩在番廃止、県在番配置。 ○分島問題。(先島を清国へ割譲する案) ○サンシー事件。(下地仁屋利社斬殺される)
1880	明治13	○宮古島役所開設。(蔵元内に)
1882	明治15	○平良小学校創立。(南北両校合併)
1887	明治20	○人頭税廃止運動起こる。
1888	明治21	○甘蔗作認可される。砂糖きび作付制限を撤廃。
1896	明治29	○「郡区編制の件」公布、宮古郡となる。島役所を島庁と改め、役所長を島司と改称。
1897	明治30	○蔵元を閉鎖し、三間切を一郡一間切とする。(宮古郡、平良間切)
1899	明治32	○土地整理はじまる。(明治36年終了)
1902	明治35	○宮古郡織物組合設立。
1903	明治36	○先島に徴兵令実施。(沖縄本島は明治31年から実施) ○先島に地租条例、国税徴収法適用。人頭税は撤廃される。 ○旧来の地割制を廃して、土地の私有制へ移行する。 ○農民、負債整理のため土地を売却しはじめる。
1905	明治38	○久松五勇士、「バルチック艦隊見ゆ」を通報。
1906	明治39	○宮古・八重山両郡民の選挙権獲得運動起こる。
1908	明治41	○島しょ町村制実施。間切(マギリ)を町村に、村を字に改める。宮古は四ヶ村となる。(平良村、城辺村、下地村、伊良部村)
1913	大正2	○海底電信開通。 ○多良間、平良村より分村。(字仲筋・字塩川・字水納、平良村より分離し、多良間村となる)
1915	大正4	○宮古において慶世村恒任による初の新聞できる。
1917	大正6	○宮古電灯株式会社設立。
1919	大正8	○衆議院選挙法、先島に適用。(沖縄本島に遅れること7年) ○コレラ伝染、患者2,000人、死者900余人。
1920	大正9	○特別府県制、特別町村制廃止。はじめて本土並み自治体となる。 ○第一回国勢調査、宮古の人口5万3千人余。
1921	大正10	○台南製糖宮古工場建設。(現沖縄製糖)
1924	大正13	○平良村、町に昇格。
1925	大正14	○宮古神社建立。
1926	大正15	○島庁を支庁に改める。島司を支庁長と改称。
1927	昭和2	○慶世村恒任「宮古史伝」を著す。
1928	昭和3	○県立第二中学校宮古分校設立。(翌年宮古中学校として独立)

1931	昭和6	○大暴風雨来襲、ちち校舎11校、住家3,717棟倒壊。
1932	昭和7	○那覇・宮古間無線電信開通。
1936	昭和11	○宮古郡町村組合立宮古高等女学校設立。（昭和15年に県立となる）
1937	昭和12	○宮古島測候所開所。
1940	昭和15	○伊良部丸遭難事件。（死者70数人）
1943	昭和18	○飛行場用地接收はじまる。
1944	昭和19	○宮古島守備部隊。（先島集団）次々来島（最終的には、総兵力陸軍2万8千人、海軍2千人、計3万人） ○非戦闘員、台湾や九州へ強制疎開。（約1万人）
1945	昭和20	○英国艦隊、先島に艦砲射撃。平良町内空襲される。町内の大半焼失。 ○米国海軍の進駐と同時に軍政が施かれる。（12月8日）
1946	昭和21	○宮古郡会開かれる。（2月20日） ○第一回通貨交換。（旧円からB軍票）（4月15日～28日）
1945	昭和21	○宮古中学校に農科、海洋科を併置。（4月）
1947	昭和22	○宮古郡会を宮古議会と改称。（7月4日） ○宮古支庁を宮古民政府に、支庁長を知事に改める。（3月21日） ○平良町、市に昇格。（3月7日）城辺村、町に昇格。（7月1日）
1948	昭和23	○市町村長、議会議員の初公選。婦人参政権のはじまり。平良市では初の婦人議員（2人）誕生。（3月7日） ○6・3・3制の新学生施行。（4月1日） ○農林高校、水産高校が独立する。（4月1日）
1948	昭和23	○琉球銀行宮古支店開店。（5月） ○第2回通貨交換。（旧B軍票から新B軍票へ）（7月16日～23日） ○上野村、下地村から分村。（8月1日）
1949	昭和24	○下地村、町に昇格。（1月1日） ○教員養成所開所。（1月26日） ○中学校教員養成のため男子高校に専攻科を付設。（4月）
1950	昭和25	○琉球大学開学。（5月） ○為替レートの改正、1ドル=50円（B円）を1ドル=120円とする。（4月） ○豆台風エルシー来襲。（6月23日）最大瞬間風速70m、死者25人、行方不明10人、負傷者39人、住家全壊1,315戸。○群島知事、群議会議員選挙。（9月） ○宮古民政府を宮古群島政府に改称。（11月18日）
1951	昭和26	○琉球臨時中央政府発足。（4月1日） ○民間貿易はじまる。
1952	昭和27	○第一回立法院議員選挙。（3月2日） ○琉球政府創立。（4月1日） ○厚生局宮古保健所設置。（4月） ○宮古地方庁設置。（9月22日）

1953	昭和28	<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会制度発足。(沖縄本島は昭和24年から実施) ○新発電機による送電開始。(平良市三大事業、9月1日) ○沖縄製糖KK設立。(9月12日、操業開始53年3月25日) ○水道工事竣工、平良市に送水開始。(平良市三大事業、5月4日) ○宮古女子高校は宮古高校と合併。(7月) ○先島のマラリア防あつ計画決定。(11月)
1954	昭和29	<ul style="list-style-type: none"> ○棧橋工事竣工、平良港棧橋へみどり丸はじめて接岸。(平良市三大事業、3月22日)
1955	昭和30	<ul style="list-style-type: none"> ○CAT航空による民間航空路初めて開設。(7月28日)
1957	昭和32	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古区裁判所設置。 ○沖縄銀行宮古支店開店。(10月) ○宮古・那覇間、宮古・八重山間無線電話開通。(12月28日)
1958	昭和33	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古島測候所創設以来の強震、震度5、死傷者3人。(3月11日) ○第3回通貨交換。(B円からドルへ、1ドル=120B円、9月16日～20日)
1959	昭和34	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古島台風(サ)来襲(最大風速53.0m、最大瞬間風速64.8m：9月15日)被害甚大、食糧不足を来たし、城辺町保良でソテツ中毒事件発生。(11月) ○宮古製糖KK設立。(12月4日、操業開始1960年12月4日) ○ゴロゴロ模合はびこる。
1960	昭和35	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄県祖国復帰協議会の結成。(4月28日)
1962	昭和37	<ul style="list-style-type: none"> ○干ばつ1月21日～3月14日(43日間)3月30日～6月4日(67日間)。
1963	昭和38	<ul style="list-style-type: none"> ○70年来の大干ばつ。1月15日～5月31日(137日間)さとうきび10a当り収穫高2.2トン。 ○宮古島フィラリア撲滅事業スタート。(1月11日)
1965	昭和40	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古島上水道組合設立(7月1日)、全島水道化はじまる。
1966	昭和41	<ul style="list-style-type: none"> ○第二宮古島台風(コ)来襲。(9月4日～6日)最大風速60.8m、最大瞬間風速85.3m、被害甚大。 ○全島電化はじまる。
1967	昭和42	<ul style="list-style-type: none"> ○南西航空就航。(7月1日) ○テレビ放送はじまる。(OHK、12月22日)
1968	昭和43	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古保健所庁舎竣工移転。(1月) ○佐良浜・多良間公看(公衆衛生看護婦)駐在書落成。
1968	昭和43	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古産業技術学区設立(4月)、1970年工業高校となる。 ○第三宮古島台風(テ)来襲。(9月22日～23日)最大風速54.3m、最大瞬間風速79.8m、被害甚大。 ○宮古島フィラリア撲滅事業終了。(10月28日) ○行政首席公選。(11月10日)
1969	昭和44	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄～宮古～八重山間の極超短波回線(UHF)開局。(7月1日)
1970	昭和45	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古地方庁を宮古支庁と改称。(10月1日) ○戦後初の衆・参議院選挙施行。(11月15日)
1971	昭和46	<ul style="list-style-type: none"> ○異常干ばつ。3月15日～9月16日(186日間)、さとうきび7,663haのうち3,000haは全滅、

		残りの単収(10アール当たり)1.2トン。
1972	昭和47	○円の大幅切り上げ決まる。1ドル308円。(12月19日) ○沖縄の本土復帰。新生沖縄県宮古支庁開庁式。(5月15日) ○第4回通貨交換。(ドルから円へ)(5月15日～20日) ○宮古民政官府閉鎖。 ○復帰後初の沖縄県知事、県議選挙施行。(6月25日) ○衆議院選挙施行。(12月10日)
1973	昭和48	○復帰記念沖縄特別国体(若夏国体)高校男子バレーボール大会、宮高体育館で開催。 ○池間島への海底送水管による給水工事完成。(8月)
1974	昭和49	○池間保健婦駐在所落成。(3月) ○乳幼児一斉検診開始。 ○来間島への海底送水管による給水工事完成。 ○多良間空港開港。(7月26日)
1975	昭和50	○漲水港下地線、下地福里線、福里保良線延長27kmの旧県道を国道390号線に認定。(4月1日) ○四農協(平良、城辺、上野、多良間)合併、宮古郡農業協同組合となる。(4月25日認可、5月1日業務開始) ○先島テレビ、一部同時放映開始。(7月15日) ○沖縄・宮古間海底ケーブル敷設。(10月)(電話900回線、カラーテレビ2回線、2チャンネル)
1976	昭和51	○宮古病院新館落成。(9月3日) ○平良港第3埠頭竣工。(10月21日) ○先島カラーテレビ同時放映開始。(NHKのみ) ○宮古本島電話全国同時通話開通。(12月22日) ○ダイヤル式へ(伊良部村51年3月17日、多良間村52年1月26日、池間島52年2月16日)
1977	昭和52	○宮古島地下ダム開発。(皆福ダム試験作業着工7月) ○フィラリア防圧。
1978	昭和53	○県立宮古養護学校創立。(4月26日開校式) ○交通方法変更実施。(7月30日) ○第1回宮古の産業まつり開催。(11月11日) ○B737ジェット機就航、空港滑走路1,500m(12月1日)
1979	昭和54	○下地島空港開港。(7月5日)
1980	昭和55	○大神島への海底送電実施。(4月1日) ○県立宮古少年自然の家落成開所。(7月) ○大神島への海底送水実施。(7月17日) ○沖縄県農業試験場宮古支場新築落成。(7月29日) ○那覇～下地島間の南西航空運航開始。(11月1日) ○旧飛行場用地(下地町、上野村)農家へ売り渡す。(11月1日) ○東平安名崎沖で石油の試掘行われる。(12月21日)

1981	昭和56	○北防災無線宮古地方局竣工。(7月26日)
1982	昭和57	○伊良部村、町に昇格。(4月1日) ○ミカンコミバエ防除開始。(4月9日) ○平良港第1埠頭竣工。(5月8日) ○全国和牛能力共進会に「あかね号」宮古銘柄牛が県代表。(7月1日) ○大神漁港開港式。(8月19日) ○第6回県民育樹祭、大野山林で開催。(10月22日)
1983	昭和58	○宮古保健所落成式。(1月21日) ○沖縄電力(株)宮古営業所第2発電所竣工。(2月4日) ○フェリーたらま就航。(2月5日) ○池間漁港開港式。(2月8日) ○宮古食肉センター落成。(5月20日) ○防災行政無線開局。(6月1日) ○宮古空港滑走路2,000米供用開始。(7月1日) ○59年度を初年度として5年計画・宮古圏域活性化推進地域指定。(12月1日)
1984	昭和59	○沖縄県立宮古高等学校伊良部分校開校。(4月1日) ○宮古広域消防組合設立。(4月1日) ○宮古島東急リゾートホテルオープン。(4月20日) ○宮古郡農協離島飼料中継基地落成。(6月16日) ○ウリミバエ防除開始(不妊虫放飼法)。(8月28日) ○ミカンコミバエ根絶される。(11月1日)
1985	昭和60	○第1回全日本トライアスロン宮古島大会。(4月27日) ○平良港第2埠頭竣工。(9月3日)
1986	昭和61	○沖縄県立伊良部高等学校開校。(4月8日)
1987	昭和62	○平良市南小学校開校。(4月1日)
1988	昭和63	○第42回国民体育大会(海邦国体)秋季大会開始式。(10月25日) ○フィラリア防圧記念碑建立。(11月) ○特殊病虫害ウリミバエ根絶宣言。(11月30日) ○宮古島地方に集中豪雨。(多良間島14時～17時の3時間に日本観測史上最高の383mmを記録。集中豪雨による農作物の被害額2億3千万円余。)(4月28日) ○サントピア沖縄第1回グランドゴルフ宮古島大会。(12月10日～11日)
1989	昭和64	○昭和天皇崩御。皇太子昭仁親王新天皇即位。(1月7日) ○元号「平成(へいせい)」と改元される。(1月8日)
1989	平成元	○宮古～東京直行便就航。(7月22日) ○水納島への海底送電事業完了。(8月1日) ○平良市総合博物館開館。(11月1日)
1990	平成2	○自衛隊の急患搬送機、宮古への途中墜落。医師1人、自衛官3人死亡。(2月17日) ○宮古土地改良区始動。(4月1日)

1991	平成3	○平良市立東小学校開校。(4月1日)
		○宮古馬天然記念物に県指定。(11月19日)
1992	平成4	○宮古島開国600年祭第1回豊見親会議。(11月23日)
		○連合沖縄宮古地区協議会結成。(2月17日)
1993	平成5	○第42回沖縄県植樹祭。(於：城辺町)(5月14日)
		○清子内親王(紀宮)殿下、地方事業視察のため、お成り。(8月31日)
1994	平成6	○池間大橋開通式。(2月14日)
		○宮古水産高等学校は、翔南高等学校と校名を改称。(4月1日)
1995	平成7	○台風第3号来襲。(最大風速25.3m/s、最大瞬間風速48.3m/s、農作物被害甚大)(6月28日～29日)
		○宮古地区国営灌漑排水事業仲原流域流水式。(7月23日)
1996	平成8	○「大和川」国指定史跡として告示。(12月18日)
		○オリックス・ブルーウェーブ、宮古島初キャンプ。(2月1日～28日)
1997	平成9	○宮古保健所健康増進室落成(3月)
		○石造建築仲宗根豊見親の墓、知利真良豊見親の墓、あとんま墓の3基が「豊見親墓」として国の重要文化財に指定。(4月20日)
1998	平成10	○平良港コースタルリゾート事業起工式。(5月12日)
		○上野村ドイツ文化村一部オープン並びにドイツ商船救助120周年記念式典。(7月14日)
1999	平成11	○多良間村庁舎落成式及び村制80周年記念式典。(7月21日)
		○「宮古島パーントゥ」国の重要無形民俗文化財に指定。(12月13日)
2000	平成12	○先島地区民放テレビ放送竣工式及び開局式。(12月16日)
		○厚生省多目的コホート調査研究事業開始。(10年計画)
2001	平成13	○松くい虫の宮古侵入確認。(1月13日)
		○来間大橋連結式。(2月14日)
2002	平成14	○沖縄開発金融公庫宮古支店新築落成式。(4月19日)
		○宮古家畜保健衛生所落成式。(5月20日)
2003	平成15	○太陽光発電システムによる送電開始。(9月30日)
		○宮古森林組合設立。(3月7日)
2004	平成16	○来間大橋開通式。(3月13日)
		○伊良部、県立自然公園に指定。(9月1日)
2005	平成17	○宮古空港新ターミナルビル起工式。(12月18日)
		○「自動車・携帯電話サービス事業」スタート。(2月1日)
2006	平成18	○上水道硬度低減化事業スタート(宮古島上水道企業団)。(3月22日)
		○沖縄県の組織改正により宮古支庁の組織が拡充(宮古福祉事務所、宮古農林土木事務所及び宮古土木事務所が宮古支庁に統合)。(4月1日)
2007	平成19	○集中豪雨、212.5mm記録。(5月31日～6月2日)
		○干ばつ。(6月3日～8月11日)
2008	平成20	○日米地位協定の見直し及び基地の整理縮小に関する県民投票。(9月8日)

1997	平成9	<ul style="list-style-type: none"> ○保健婦駐在制度廃止。 ○平良市制施行50周年記念式。(3月7日) ○宮古支庁機構改革により会計課が振興総務課に吸収され、新たに商工観光課が設置。(4月1日) ○城辺町制施行50周年記念式。(7月1日) ○宮古空港新ターミナル地区供用開始。(7月16日) ○沖縄県宮古支庁新庁舎落成式。(10月28日) ○宮古行政史刊行。(12月1日)
1998	平成10	<ul style="list-style-type: none"> ○多良間村移動通信施設開局。(3月26日) ○県の組織機構改革により、農林水産部宮古家畜保健衛生所と同部宮古農業改良普及センターが宮古支庁に統合。(4月1日) ○多良間家畜セリ市場落成式。(5月12日) ○上野村制施行50周年記念式。(8月1日) ○第49回九州地区緑化推進大会宮古島大会。(10月29日～30日) ○第1回宮古観光感謝祭(東京)。(11月5日) ○伊良部町マングローブ協会設立。(11月17日) ○風力発電実証研究施設竣工式(城辺町福里七又地区)。(11月26日)
1999	平成11	<ul style="list-style-type: none"> ○各市町村にて地域振興券交付。(2月下旬～3月中旬) ○硬度化低減施設供用開始。(4月1日) ○平良港第四埠頭浮棧橋供用開始。(4月2日) ○国道390号バイパス(マリンターミナル前)開通。(4月19日) ○台湾からスター・アケリアス号初入港。(9月9日) ○第15回水郷水都全国会議in沖縄・宮古島。(10月15日～17日) ○下地町町制施行50周年記念式典。(10月23日)
2000	平成12	<ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度施行。(4月1日) ○伊良部町水道水質改善事業竣工式。(4月11日) ○第1回ビーチバレー大会開催。(5月14日) ○九州・沖縄サミット開催、ドイツのシュレーダー首相来島。(7月21日) ○下里通り両面通行開始式。(8月10日) ○宮古警察署新庁舎落成式。(11月13日) ○国営、公団地下ダム事業完工式。(11月15日) ○ドイツ国首相シュレーダー通り愛称碑設置除幕式。(11月25日) ○下地町役場新庁舎落成式。(12月2日) ○第35回沖縄県身体障害者福祉大会。(12月3日)
2001	平成13	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古島マリリゾート協同組合発足。(3月27日) ○宮古支庁機構改革により、振興総務課と商工観光課が統合され総務・観光振興課が設置(4月1日)。 ○宮古マルチメディアセンター開所。(5月10日)

2002	平成14	<ul style="list-style-type: none"> ○佐良浜漁港フェリーバースの供用開始。(9月4日) ○マグリ農道(多良間村)開通。(11月5日) ○第25回沖縄県育樹祭開催。(11月23日) ○平良市西原の産業廃棄物最終処分場火災発生。(11月28日) ○宮古最後の常設映画館であった宮古国映館が閉館。(2月22日) ○県営平良団地建て替え工事完了。(3月22日) ○県の組織機構改革により、宮古支庁福祉課と福祉保健部宮古保健所が統合され宮古支庁宮古福祉保健所となる。(4月1日) ○宮古地区市町村合併協議会設置。(4月1日) ○旧27単協が合併し、県単一農協「JAおきなわ」が発足(4月1日) ○産業廃棄物処分場問題宮古支庁対策委員会設置。(4月15日) ○伊良部架橋技術検討委員会設置。(4月24日) ○内浜地区海岸護岸(下地町)工事の整備完了(11月20日) ○入域観光客数が過去最高の340,492人となる(12月31日)。
2003	平成15	<ul style="list-style-type: none"> ○宮古芋麻績み保存会が国の伝統技術保存団体に認定。(6月20日)。 ○スタークルーズ社(マレーシア)の大型旅客船「スーパースタージェミナイ号」が3年ぶりに平良港に入港。(7月10日) ○宮古地域干ばつに見舞われる。(7~9月) ○下地町のトウガンが離島地域の野菜として初の拠点産地に認定。(9月1日) ○沖縄県総合防災訓練【宮古島市・多良間村】。(9月3日) ○台風14号(マエミー)宮古島を直撃、最大瞬間風速74・1m、中心気圧912hPaを記録。最大瞬間風速歴代4位、中心気圧歴代2位で本土復帰後史上最大の被害(被害総額131億9千万円)。(9月10~11日) ○新多良間空港供用開始。(10月10日) ○年間肉用牛販売額が過去最高の23億円。(12月9日) ○入域観光客数が過去最高の368,902人となる。(12月31日)
2004	平成16	<ul style="list-style-type: none"> ○天皇・皇后両陛下初めての宮古島ご視察。(1月24~25日) ○電線地中化の新規路線等が承認。(4月14日) ○多良間村前泊港旅客待合所の供用が開始。(7月28日) ○宮古農林高校環境班が「第8回ストックホルム青少年水大賞」国際コンテストで、グランプリを受賞。(8月17日) ○宮古で初めての屋根付き漁船用浮き棧橋が佐良浜漁港で完成。(10月3日) ○宮古地区田園地域マルチメディアモデル整備事業の開局。(10月6日) ○伊良部架橋の早期着工を目指し、漁業補償交渉開始。(10月15日)。 ○第1回宮古の農林水産フェア開催。(11月13日)。 ○宮古地区5市町村で合併枠確定。(12月8日) ○肉用牛のセリ販売額26億1千万円。(12月9日)
2005	平成17	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車リサイクル法違反事件の検挙。(1月20日)

2005	平成17	<ul style="list-style-type: none"> ○市場通り線の対面通行供用開始。(3月24日) ○沖縄県宮古不発弾保管庫の整備完了。(5月24日) ○小池沖縄担当大臣来島。(5月28～29日) ○佐良浜漁港に客船専用屋根付き浮き栈橋設置。(6月7日) ○美ぎ島宮古グリーンネット設立。(6月8日) ○伊良部架橋建設で漁業補償契約の締結。(7月12日) ○平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の合併により宮古島市が誕生。(10月1日) ○肉用牛のセリ販売額が過去最高28億4千万円。(1月～12月)
2006	平成18	<ul style="list-style-type: none"> ○伊良部大橋着工。(3月18日) ○バタラズ農道開通。(3月22日) ○宮古養護学校増改築工事着工。(3月27日) ○国営宮古伊良部地区と多良間地区の地下ダム調査開始。(4月18日) ○第57回沖縄県植樹祭宮古開催。(4月29日) ○多良間村の農業生産販売額が初めて11億円を達成。(6月13日) ○多良間村山羊生産組合の設立。(8月1日) ○さとうきび生産組合の設立。(10月10日) ○電線共同溝整備工事着工。(11月21日) ○肉用牛セリ販売実績過去最高29億5千万円。(1月～12月) ○県営土地改良事業の完工。(1月～12月)
2007	平成19	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴーヤー、かぼちゃ、とうがんの3品目を拠点産地として宮古島市を認定。(2月8日) ○誘殺灯2千其でさとうきび害虫アオドウガネの一斉防除。(5月～8月) ○宮古産マンゴー、350 t (前年比41%増) の大增産。(6～8月) ○「北福波」産子(宮古島産)2年連続チャンピオン賞並びに名誉賞。(7月30日、11月26日) ○伊良部大橋本体工事に着手。(9月6日) ○農業振興懇話会の設立。(10月9日) ○平成19年度農林水産祭村づくり部門(島尻集落)において農林水産大臣賞受賞。(11月20日) ○岸田文雄内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)宮古島視察。(11月25日) ○支庁改編プラン見直し。(12月) ○国営宮古伊良部地区地下ダム事業採択。(12月) ○肉用牛のセリ販売額が過去最高29億6千万円。(12月9日) ○漁協とダイビング業、共同声明。16年余の紛争解決へ。(12月15日) ○第1回宮古地区新型インフルエンザ対策想定訓練。(12月20日)
2008	平成20	<ul style="list-style-type: none"> ○ダイビング問題解決を受け、宮古地域における海面の調和的利用に関する協定が締結。(2月1日) ○小泉純一郎元首相宮古島視察。(2月14日) ○宮古地区向けさとうきび新品種「農林25号」が沖縄県の奨励品種に決定。(3月25日)

2008	平成20	<ul style="list-style-type: none"> ○さとうきび生産量、10年ぶりに33万トンを突破。(4月) ○田園空間整備事業(多良間村地区)新規採択。(6月30日) ○第1回沖縄マンゴーコンテストで上位(県知事、総合事務局長賞)を独占。(7月20日) ○「宮古地区青果物流通対策推進協議会」発足。(9月5日) ○農業農村整備事業に係る県営7地区が新規採択。(9月17日) ○宮古和牛改良組合城辺支部の「あやこ号」若雌が平成20年度(第34回)沖縄県畜産共進会で入賞。(11月7日) ○「沖縄ハンセン病証言集・宮古南静園編」平和・協働ジャーナリスト基金奨励賞受賞。(12月7日)
2009	平成21	<ul style="list-style-type: none"> ○伊良部大橋上部工の架設工事に着手。(12月10日) ○宮古島市環境モデル都市に認定。(1月23日) ○新宮古病院整備基本計画策定。(3月31日) ○宮古支庁改編により宮古事務所、宮古福祉保健所、宮古農林水産振興センター、宮古土木事務所が開所され本庁直轄型の組織となる。(4月1日) ○「宮古伊良部地区・国営かんがい排水事業」の着工及び末端整備の県営事業9地区の新規着手。(平成21年度) ○サトウキビ2期連続30万トンの大台突破及び過去最高の高品質を記録。(4月8日) ○マンゴー、肉用牛(子牛)2品目を拠点産地として宮古島市を拠点産地認定。(3月26日、7月22日) ○新型インフルエンザ大流行。(7月～) ○佐良浜かつお漁100年祭。(7月12日) ○沖縄県総合防災訓練【宮古島市・多良間村】。(9月11日) ○県畜産共進会枝肉部門・宮古産種雄牛「北福波」の産子が上位独占。(9月11日) ○宮古地区地上デジタル放送開局。(10月21日) ○JTA羽田～宮古便就航20周年記念美ぎ島宮古の森植樹祭。(12月12日)
2010	平成22	<ul style="list-style-type: none"> ○旅券発行事務を宮古島市・多良間村へ委譲。(4月1日) ○大神海運の新造船「スマヌかりゆす」就航。(5月27日) ○口蹄疫侵入防止対策の実働演習を平良港にて実施。(6月16日) ○第1回マンゴー祭り開催。(7月3日～4日) ○インターハイ男子バレーボール宮古島大会開催。(7月30日～8月3日) ○法テラスが宮古合同庁舎にて業務開始。(9月1日) ○宮古合同庁舎施行5周年。(10月1日) ○南静園新園舎落成。(10月1日) ○第1回宮古牛祭りを開催。(10月7日) ○第1回エコマラソン開催。(10月31日) ○宮古島メガソーラー実証研究設備が竣工。(12月3日)